特集　世界遺産・日本遺産のまち香取

ユネスコ無形文化遺産

―佐原の山車行事―

UNESCO Intangible Cultural Heritage : 33 Yama, Hoko, Yatai, float festivals in japan
The Sawara Float Festival

登録

佐原の山車行事（佐原の大祭）が平成28年12月、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の第11回政府間委員会(アディスアベバ・エチオピア)において、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」へ記載（登録）されました。千葉県内の国指定文化財がユネスコの世界遺産や無形文化遺産へ登録されるのは初めてのことです。江戸時代から約３００年間続く伝統と技が織り成す佐原の山車行事。時代の変遷を経て受け継がれてきた祭りへの熱い心意気は、ついに世界へと届けられました。

Feature story　Katori, a city of both World and Japanese Heritage UNESCO Intangible Cultural Heritage　Sawara Float Festival

The Sawara Float Festival (Grand Festival), which has been held for about 300 years, since the Edo era, was registered on UNESCO's Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity in December 2016.

世界へ届いた佐原の誇り

佐原の山車行事

ユネスコ無形文化遺産に登録された国指定重要無形民俗文化財である「山・鉾・屋台行事」33件のうちの一つ

山車24台が17年ぶりにそろい踏み（ユネスコ無形文化遺産登録記念祝賀山車曳き廻し）
平成29年4月29日　香取市佐原コミュニティセンターにて

ユネスコ無形文化遺産に登録された「佐原の山車行事」は、それまで千葉県指定有形民俗文化財であった「佐原囃子」を包括し、平成16年2月6日に国の重要無形民俗文化財に指定されています。

佐原の山車行事は、町を南北に流れる小野川を境に、東の本宿八坂神社の祇園祭が7月、西の新宿諏訪神社の例大祭が10月と、年に2回執り行われます。佐原囃子の情緒的な音色に合わせて山車が曳き廻されます。もともとは、地域の災いを払い、安泰を祈る神事に由来しています。

祭りの主役である山車は、主にケヤキ材で造られており、それぞれの町内ごとに特徴のある飾り付けがなされています。繊細な彫刻や玉すだれ、もう作り手がいないと言われている日本最大級4～5メートルもある大人形が特徴です。町内の人の手による麦藁細工の鯉や稲藁細工の鷹などの飾り物も見逃せません。

見ごたえのある豪華絢爛かつ重厚な山車を、技を競いあって曳く佐原の山車行事。江戸時代から約300年続く祭りには、誇りと技の伝承が欠かせません。

そのために、山車持ち町内での組織があります。区長、古役、当役、若連などに区分され、明確な上下関係の中、「うちが1番だ」という同じ想いを共有しつつ、世代を超えた厳しくも温かい交流のもと、ありとあらゆる伝承がなされていきます。

自慢の山車を繰り出し、そして多くの他の山車（町）と切磋琢磨し、心や技を競い合いながら祭りを楽しむ「心意気」がまさに佐原の誇りなのです。

365日は祭りのためにあると言われるほど、佐原っ子は心底祭りが好きで、生活と祭りが結びついています。子どもの頃から身近に祭りがあり、親から子へ、年長者から年少者へ、300年余受け継がれてきた歴史の重みがここに見え隠れします。

佐原の誇りが世界に届いた喜びを胸に、これから先も見据えていかなければならないでしょう。

佐原の山車行事は代表選手

ユネスコの無形文化遺産は、傑出したものを公に宣言する方法（傑作宣言）から、すべての無形文化遺産の価値は同じであるとする考えに立ち、代表を選んで一覧表に記載する方法（記載）をとっています。佐原の山車行事も、日本代表として活躍し続けることで、類似する山車行事のさらなる啓発につながっていきます。

ユネスコ無形文化遺産登録までの歩み

平成21年「京都祇園祭の山鉾行事」と「日立風流物」のユネスコ無形文化遺産登録以降、無形文化遺産登録数の増加もあり、単独の「山・鉾・屋台行事」の登録が難しくなりました。そこで、文化庁では、類似案件をグループ化して提案する方針をとりました。

平成27年3月、佐原の山車行事を含む、国指定重要無形民俗文化財33件をグループ化し、登録済みの「京都祇園祭の山鉾行事」と「日立風流物」を含め「山・鉾・屋台行事」として提案しました。

市長とともに登録を喜ぶ（与倉屋土蔵にて）

パブリックビューイングで登録の瞬間を待つ

日本遺産

JAPAN HERITAGE

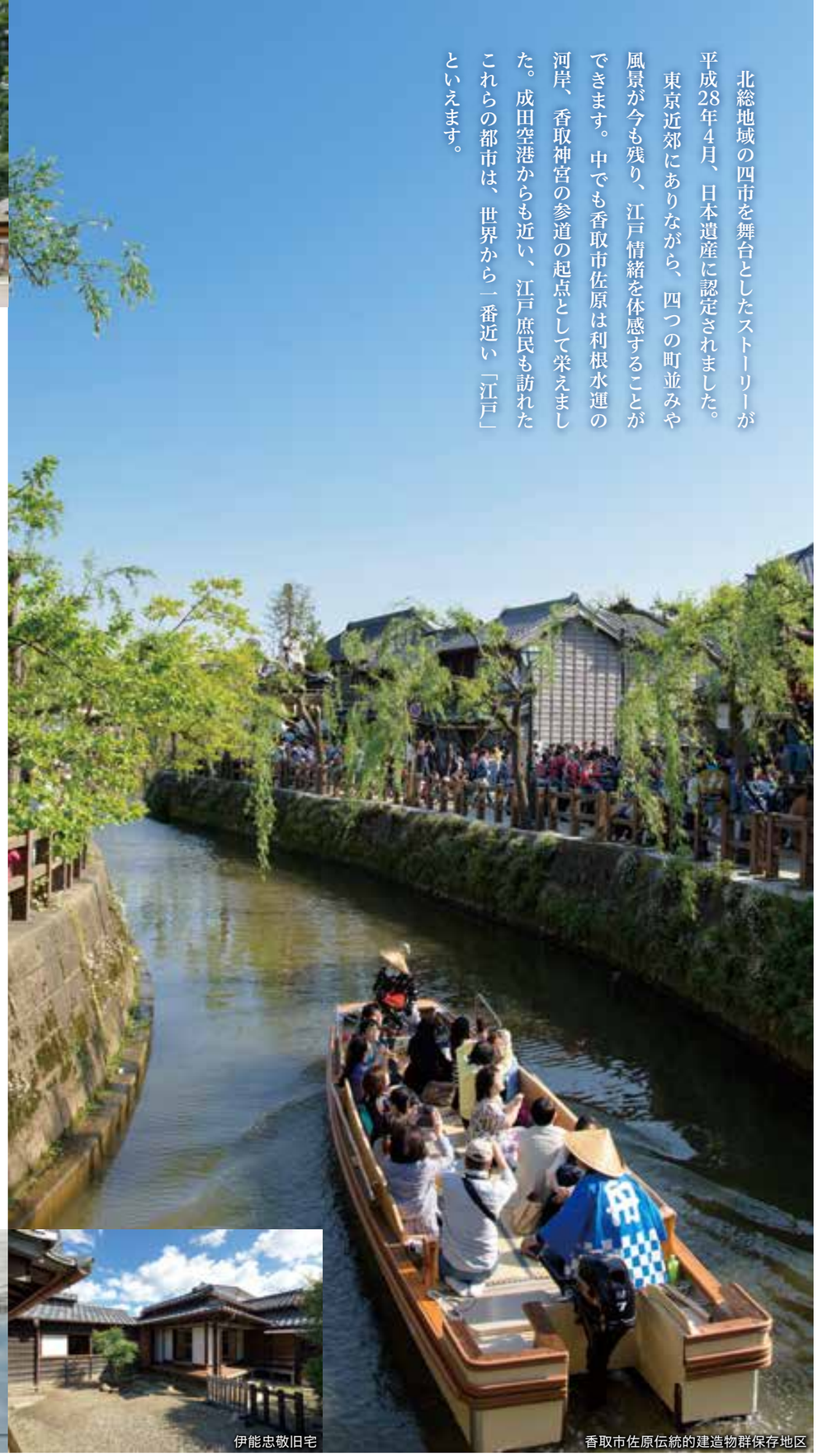
認定

北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み

佐倉・成田・佐原・銚子　百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群

北総地域の四市を舞台としたストーリーが平成28年4月、日本遺産に認定されました。

東京近郊にありながら、四つの町並みや風景が今も残り、江戸情緒を体感することができます。中でも香取市佐原は利根水運の河岸、香取神宮の参道の起点として栄えました。成田空港からも近い、江戸庶民も訪れたこれらの都市は、世界から一番近い「江戸」といえます。



香取市佐原伝統的建造物群保存地区

日本遺産…地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る制度。

Japan Heritage
An Edo Travelogue through Four Hokuso Cities
Historic Hokuso townscape, rich in the atmosphere of the Edo era
Sakura, Narita, Sawara and Choshi: Four quintessential historical districts lying in the suburbs of Edo and supporting the megacity

A story of four cities of Hokuso, designated a Japan Heritage Site in April 2016, where you can feel much of the atmosphere of the Edo era

成田　香取　鹿島　息栖　細見絵図（千葉県立中央博物館蔵）

香取神宮

商家の町　佐原のストーリー

「お江戸見たけりゃ佐原へござれ、佐原本町江戸優り」

江戸時代の佐原は下利根随一の河港商業都市で、江戸時代初めから酒造も始まり、廻米・酒造・商業の一大拠点でした。海難事故の多い房総沖を避け、銚子から利根川を遡って江戸に向かうルートが主要水運として発達したことで地の利を得た佐原。商家の町として、江戸優りと例えられる繁栄ぶりでした。

また、香取神宮参道の起点として参拝客でも賑わい、江戸後期には、行楽の船旅として三社詣で（香取神宮・鹿島神宮・息栖神社）が流行しました。水運隆盛による江戸との密接な関わりは、経済だけでなく地域文化も活性させ、その結果、伊能忠敬をはじめ多くの文化人を輩出しました。

ここ佐原では、江戸時代の町並みが残され、江戸情緒を感じながら散策し、往時の商人の暮らしを体感することができます。

佐原の山車行事

津宮河岸の常夜燈

佐藤尚中誕生地

◆佐原の町並み
（香取市佐原伝統的建造物群保存地区）
利根川に繋がる小野川沿い、街道沿いに多くの商家が軒を連ねた。平成8年に関東で初めて重要伝統的建造物群保存地区に選定。

◆伊能忠敬旧宅
伊能忠敬が佐原で30年余りを過ごした母屋と店舗などがそのまま残されている。

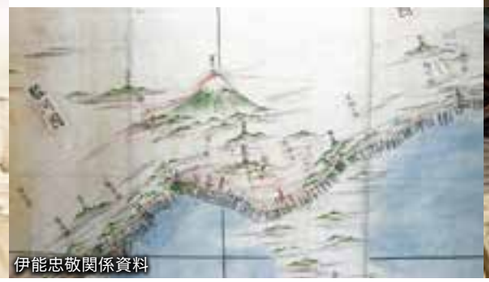
◆伊能忠敬関係資料
平成22年6月、2,345点が国宝指定。

◆佐原の山車行事
江戸時代から300年続く由緒ある山車行事。平成28年ユネスコ無形文化遺産登録。

◆香取神宮
下総国一の宮で、祭神は経津主大神（ふつぬしのおおかみ）。広く崇敬されている。

◆津宮河岸（常夜燈）
香取神宮の一の鳥居が利根川に面して立つ、津宮鳥居河岸。かつては香取神宮への表参道口。

◆佐藤尚中（たかなか）誕生地
下総国小見川出身の佐藤尚中（山口舜海（しゅんかい））は、江戸で西洋医学を学び、順天堂医院（後の順天堂大学）を開いた近代医学の中心人物。



伊能忠敬関係資料

伊能忠敬旧宅

城下町　**佐倉**

佐倉は江戸の東を守る要所として栄えた城下町です。佐倉城跡（佐倉城址公園）、佐倉武家屋敷、旧堀田邸などで城下町の面影が偲ばれます。

門前町　**成田**

成田は、成田山新勝寺の門前町として栄えてきました。参詣客で賑わう成田山新勝寺と門前の町並み、宗吾霊堂で江戸情緒を楽しめます。

港町　**銚子**

銚子は、太平洋に面した好漁場で、江戸に魚を供給した港町。かつ、醤油の町。屏風ヶ浦の断崖絶壁などの自然景観は、古来より人々を魅了してきました。